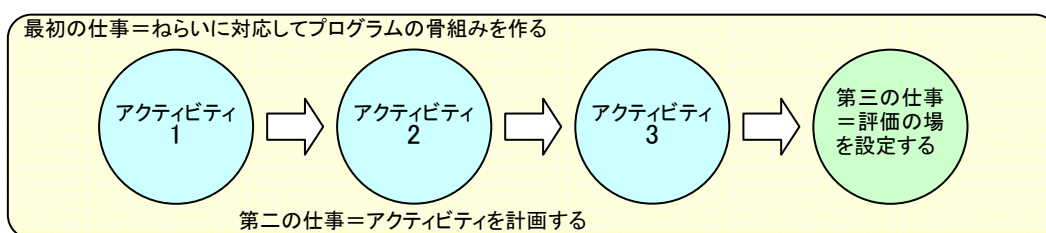


指導者・引率者の仕事

◎最初の仕事

- いつ、どこで、だれが、なに（アクティビティ）を、どのようにやるのか。そして、それは何のためにやるのか——。プログラムの骨組み（5W1H）を固めるのが指導者・引率者の最初の仕事になります。そのうちのいくつか、例えば予算などは、あらかじめ固定されている場合もあります。

目的はあらかじめ決まっているのがふつうですが、団体の課題に対応して、目的を設定するところから指導者・引率者の仕事がスタートする場合があります。いずれにしても、目的とプログラムが完全に合致していることが一番重要です。



◎第二の仕事

- プログラムの中に配置するアクティビティを計画してください。これが、指導者・引率者の皆さんの二番目の仕事です。

アクティビティについて、展開の仕方や効果的な扱い方など、活動内容だけでなく指導方法という側面も含めて、吉備では、「活動プログラム」と呼んでいます。アクティビティが1→2→3と進むごとに、所期のねらいに迫っていくのが理想です。

活動プログラムは安全・確実に実行されることが大切ですから、例えば1301ウォークラリーを実施するためには、指導者・引率者が実際のコースを事前に歩いてみることで、5203竹スプーン作りでは、指導者自身が一度作ってみたり子どもたちがどの程度ナイフを扱えるのか事前に把握したりしておくことなど、事前の準備やスタッフ研修が重要となります。参加者の状況やその他の諸条件によっては、マニュアルを適宜アレンジし、団体の実態に合う活動プログラムの実行計画を作成します。単に活動の中身を知ることを超えて、活動プログラム実行のための具体的な準備を進められるようになれば、あなたはすでに本物の指導者です。

◎第三の仕事

- 例えば野外炊事のとき、一番早く片付けが終わったチームが、学びが一番多かったグループだ…とは限りません。しかしそういうチームは、ものごとを手際よく進めるためのヒントやコツをつかんだ可能性はあります。

ふり返しなどによって誰かの学びを全体で共有したり、まとめの場面で、活動中には気付かなかった自分たちの成長を実感したりできるような仕掛けをするなど——。評価の場を設定してやるのが指導者・引率者の皆さんの三番目の仕事です。

※ 自然体験の中には、体験することそのものに値打ちがある！ということもあります。例えば、釣りをしてどうなるのか…。釣りをやる特別なねらいや目的は何もなくても、ただ釣りを楽しむだけで十分…という活動も大いに“あり”です。子どもにとって、「遊び」というのはそういうもので、「遊びをして何になるのか」ということではなくて、遊ぶことそのものに値打ちがあります。指導者・引率者には、そういう視点も重要です。

※ プログラム及び活動プログラムを円滑に遂行するためには、マネージャーの働きも重要です。国立吉備青少年自然の家ご利用にあたっては、利用申込みや物品・食事の注文等に係り、必要な様式や切がありますので、所定の手続きを遺漏なく実行してください。詳細については、「利用の手引き」をご覧ください。